

# ごとう通信

第 232 号

令和2年4月1日

皆さんはどんな日常をお送りでしょうか。今回のコロナショック、さすがに報道だけでなく、医療者としての自分自身も見通しが甘かったなあと思います。最初はクルーズ船の話だけで、何とか国内に持ち込まないでほしいとは思いましたが、現代社会、そんな一方だけの交流ではないですよ。インバウンドという言葉で多くの外国人を受け入れているのですから、話はすでに年明けから始まっていたのかもしれない。連日の報道を見てみると気がめいってしまいますが、何とか早く治療薬、そして予防用のワクチンが開発されることを祈っています。



今回、マスコミでもいろんな感染症専門の医師が登場しますが、「自分にはできないなあ」と思いました。要は目に見えないものとの戦い。感染予防の対策をいくらやっても、100パーセント防御できるとは言えませんが、完全な防護服を着て処置をしても、それを脱ぐときにどこかに付着してしまうかもしれません。それでも対応してくれる。本当に心強い専門家です。

さて、こんな自粛ムードですが、道端の桜には癒されますね。今年は暖冬で開花が早かったので、先月上旬には早咲きの桜が咲き始めていました。多くの人出があり、海外の方たちも入り

乱れて大宴会をする花見も良いですが、通りすがりに素晴らしい桜を目にできるのも幸せです。昔から花見といえば宴会のイメージでしたが、こういう楽しみ方も粋ですね。来年以降の花見も「2年分騒ぐ！」ではなく、花見そのものの在り方が変わってもいいかなあと思いました。

## 医療の使い方

今回のコロナウイルス騒動で連日、そして一日中報道されているので耳にされた方も多いと思いますが、「医療崩壊」という言葉があります。患者さんが多くなりすぎて医師の手が回らず、処置すべき人に処置できない事態になることです。今回の騒動で言うと、軽症で少し熱っぽいくら



いで病院を受診してしまつと、本当に重症な方のために過酷な労働をしている医師が、さらに軽い症状の方も見なくてはならなくなる。それによって過労で医師が倒れてしまつたりすると重症の方も見る人がいなくなつてしまふ…という話です。

しかし、実は、医療崩壊はかなり前から始まつていたので。その結果起きているのが大病院の「3分診療」や小児科医、救急医の不足問題、さらに医療費の増大です。

僕たちの世代以上の方は分かると思いますが、昔、風邪で病院に行きましたか？ちよつと発熱して救急車を呼ぼうと思いましたが？今の医療の深刻な問題は、「しっかり栄養を

とつて暖かくして早めに寝る」だけでいい人が病院や診療室に来ることです。その方が医療機関に来られると、医師だけでなく受付であつたり看護師であつたりが時間を取られます。その結果、受診した本人は睡眠時間も取られて病人の集まる病院に行つて疲労し、逆に感染したりする



し、医療者は時間を取られ（診療だけでなく書類を書いたりも含めて）、医療費は増大する。何一ついいことないのに「不安だから」行つてしまふ。実はこれが現実です。

奇しくも今回の「不要不急の外出は避ける」、「軽症者は自宅待機」、「予防のために手洗いの励行」というのは今に始まつたことではなく、日常から言わなければならなかつた

ことなのです。こんな騒動ですが、より良い社会のために考えることはたくさんありますね。

## 読書

すっかり時間ができてしまい、外出もままならない中、読書の機会が増えています…と言っても少しですけど。紙媒体2・電子書籍8の割合なのです。最近はどういう本が紙媒体に向いているのか少しわかってきました。と言うより、電子書籍を意識した本も多くなつていくように感じました。内容が濃い本はやはり紙のもの、雑誌や割と軽い内容のものは電子書籍でざつと見る程度かなあと思います。